

平成27年

火災・救急活動の概要

高槻市消防本部

1 火災

(1) 火災件数と出火率

◎火災は25件の増加

平成27年中に高槻市内で発生した火災は75件で、前年の50件と比べ25件の増加となった。

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は2.1で、全国平均（平成26年中）3.4と比べ1.3ポイント低い。

(2) 火災種別

◎建物火災が約半数

平成27年中の火災件数のうち建物火災が35件で、全火災の約半数を占めている。

※件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

建物火災	35件（46.7%）
林野火災	0件（0%）
車両火災	10件（13.3%）
その他の火災	30件（40.0%）

(3) 焼損面積

◎焼損床面積は減少、焼損表面積は増加

建物火災は35件で前年の27件から8件増加したものの、焼損床面積は630平方メートルで、前年の910平方メートルに比べ減少となった。

焼損表面積は27平方メートルで、前年の6平方メートルに比べ増加している。

(4) 損害額

◎損害額は減少

平成27年中の損害額は56,526千円で、前年の99,279千円から比較すると42,753千円の減少となった。

1件当たりの損害額は754千円で、前年の1,986千円より1,232千円の減少である。

※損害額の整数第3位を四捨五入

(5) 火災による死傷者

◎死者はなし、負傷者は減少

平成27年中の火災による死者はなく（前年1人）、負傷者は11人（前年12人）であった。

また、負傷者11人のうち、重症者はなく（前年3人）、中等症者が3人（前年3人）、軽症者が8人（前年6人）である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

◎平成27年は「放火（疑いを含む）」が1位に

ア 平成27年中の全火災（75件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

※件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

放火（疑い23件を含む）	29件（38.7%）
たばこ	9件（12.0%）

こんろ	8件 (10.7%)
ストーブ	4件 (5.3%)
火あそび	4件 (5.3%)
風呂かまど	2件 (2.7%)
電灯・電話等の配線	2件 (2.7%)
配線器具	2件 (2.7%)
排気管	1件 (1.3%)
マッチ・ライター	1件 (1.3%)
溶接機・切断機	1件 (1.3%)
その他	10件 (13.3%)
不明	2件 (2.7%)

イ 建物火災 (35件) を原因別にみると以下のとおりである。

※件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

こんろ	8件 (22.9%)
放火 (疑い5件を含む)	7件 (20.0%)
ストーブ	4件 (11.4%)
火あそび	2件 (5.7%)
たばこ	2件 (5.7%)
風呂かまど	1件 (2.9%)
電灯・電話等の配線	1件 (2.9%)
配線器具	1件 (2.9%)
マッチ・ライター	1件 (2.9%)
その他	6件 (17.1%)
不明	2件 (5.7%)

(7) まとめ

平成27年中の火災は、75件で前年の50件に比べ25件増加している。従前に引き続き地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

火災種別でみると、建物火災が35件で前年より8件増加したが、焼損床面積や損害額は前年より減少している。

火災による死者はなく、負傷者は11人で、前年より1人減少している。

出火原因は、「放火 (疑いを含む)」が29件で1位、「たばこ」が9件、「こんろ」が8件と続いている。「放火 (疑いを含む)」は、前年の14件から倍増し29件で、消防、警察、自治会、自主防災組織、事業所等が取り組んでいる「放火されにくい地域環境作り」を推進し、放火撲滅に向け積極的な対策をより一層実施していかなければならない。

平成 27 年火災概要（対前年比）

区 分	単位	平成 27 年 (A)	平成 26 年 (B)	増減 (C) (A)－(B)	増減率 (%) (C) / (B) × 100		
出火件数		75	50	25	50.0		
建物火災	件	35	27	8	29.6		
林野火災		0	0	0	0		
車両火災		10	7	3	42.9		
その他の火災		30	16	14	87.5		
焼損棟数			39	36	3	8.3	
全 焼	棟	3	5	△2	△40.0		
半 焼		4	1	3	300.0		
部分焼		6	3	3	100.0		
ぼ や		26	27	△1	△3.7		
焼 損 面 積	建	床面積	㎡	630	910	△280	△30.8
	物	表面積	㎡	27	6	21	350.0
	積	林 野	a	0	0	0	0
死者	人	0	1	△1	△100.0		
負傷者	人	11	12	△1	△8.3		
り災世帯		26	24	2	8.3		
全 損	世帯	3	6	△3	△50.0		
半 損		0	2	△2	△100.0		
小 損		23	16	7	43.8		
り災人員	人	76	61	15	24.6		
損害額		56,526	99,279	△42,753	△43.1		
建物(収容物含む)	千円	54,642	78,002	△23,360	△29.9		
林野		0	0	0	0		
車両		1,652	19,112	△17,460	△91.4		
その他(爆発含む)		232	2,165	△1,933	△89.3		
出火率		件	2.1	1.4	0.7	50.0	
年	平成 27 年			平成 26 年			
主な火災原因	1	放火 (疑いを含む)	29 件	1	放火 (疑いを含む)	14 件	
	2	たばこ	9 件	2	こんろ	6 件	
	3	こんろ	8 件	3	たばこ	5 件	
	4	ストーブ	4 件	4	ストーブ	3 件	
	4	火あそび	4 件	4	火あそび	3 件	

過去5年間の火災状況

区分		年別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
火災件数			89	120	111	50	75
内 訳	建 物		50	43	49	27	35
	林 野		3	5	2	0	0
	車 両		12	10	7	7	10
	その他		24	62	53	16	30
	爆発（再掲）						
焼損棟数（棟）			70	49	52	36	39
内 訳	全 焼		9	3	3	5	3
	半 焼		3	0	1	1	4
	部分焼		17	8	11	3	6
	ぼ や		41	38	37	27	26
焼損面積	建 物	床面積（㎡）	1,144	1,460	342	910	630
		表面積（㎡）	281	44	38	6	27
	林 野（a）			13	10	2	0
り災世帯（世帯）			51	43	35	24	26
内 訳	全 損		8	14	5	6	3
	半 損		8	3	2	2	0
	小 損		35	26	28	16	23
り災人員（人）			128	93	74	61	76
損 害 額（千円）			96,038	192,695	57,460	99,279	56,526
内 訳	建 物（収容物含む）		90,506	173,087	54,100	78,002	54,642
	林 野		0	0	6	0	0
	車 両		5,087	15,113	3,010	19,112	1,652
	その他（爆発含む）		445	4,495	344	2,165	232
死 者	48時間（人）		2	2	0	1	0
	30日（人）		0	0	0	0	0
負 傷 者（人）			20	20	11	12	11
覚 知 別 件 数			89	120	111	50	75
内 訳	火災報知専用電話（119）		58	67	69	23	37
	加 入 電 話		3	2	2	1	1
	警 察 電 話		3	11	4	3	7
	事 後 聞 知		23	36	32	19	29
	そ の 他		2	4	4	4	1

2 救 急

(1) 救急出場件数

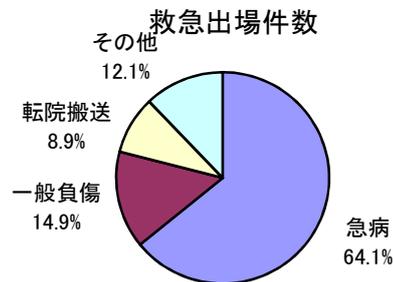
◎ 出場件数は増加

平成27年中の救急出場件数は19,022件で前年18,458件に比べ564件(3.1%)増加した。

また、1日平均にすると約52件、約28分に1回の割合で出場したことになる。

出場件数を事故種別毎にみると、第1位が急病で12,200件(64.1%)、第2位が一般負傷2,825件(14.9%)、第3位が転院搬送1,689件(8.9%)の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出場件数は491件であった。



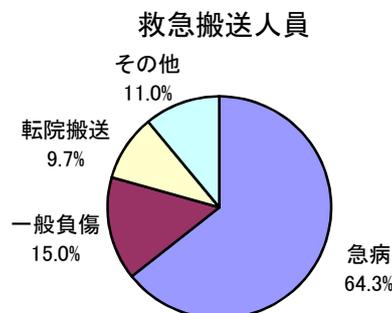
(2) 救急搬送人員

◎ 搬送人員は増加

平成27年中の搬送人員は17,420人で、前年16,811人に比べ609人(3.6%)増加した。

また、1日平均約48人、市民の約20人に1人が救急車で医療機関へ搬送されたことになる。

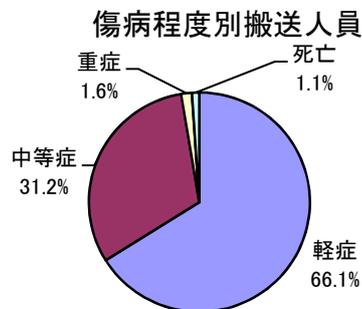
搬送人員を事故種別毎にみると、第1位が急病で11,205人(64.3%)、第2位が一般負傷2,621人(15.0%)、第3位が転院搬送1,683人(9.7%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎ 軽症患者は11,516人

平成27年中の搬送人員17,420人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が11,516人(66.1%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が重症又は軽症以外のもの)が5,443人(31.2%)、重症(傷病の程度が3週間以上の入院加療を要するもの)が271人(1.6%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が190人(1.1%)の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

◎ 応急手当普及啓発と救急車の正しい使い方をPR

平成27年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると、出場件数・搬送人員とも増加となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症患者が多く、全搬送人員の66.1%を占めており、全国平均の49.4%(平成26年中)に比べ高い割合を示している。

このことから日常的に、更には「救急の日」等の諸行事、救命講習会・各広報媒体を通じて、応急手当普及啓発と救急車の正しい利用について、市民の方に周知徹底を図る必要がある。

救急概要

区分 事故種別		出場件数(件)			搬送人員(人)		
		27 年	26 年	増 減	27 年	26 年	増 減
合 計		19,022	18,458	564	17,420	16,811	609
火 災		46	34	12	11	11	0
自然災害		0	0	0	0	0	0
水 難		4	4	0	0	2	△ 2
交 通		1,519	1,631	△ 112	1,471	1,562	△ 91
労働災害		133	134	△ 1	123	123	0
運動競技		118	114	4	118	111	7
一般負傷		2,825	2,672	153	2,621	2,472	149
加 害		105	95	10	88	88	0
自損行為		162	222	△ 60	97	141	△ 44
急 病		12,200	11,794	406	11,205	10,783	422
そ の 他	転院搬送	1,689	1,521	168	1,683	1,516	167
	医師搬送	0	0	0	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0	0	0	0
	その他	221	237	△ 16	3	2	1

3 救 助

	火災	交通 事故	水難 事故	自然災害 事故	機械に よる事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	6	28	7	0	1	103	0	98	243
活動件数(件)	6	11	4	0	1	83	0	40	145
救助人員(人)	1	12	3	0	1	81	0	16	114

4 その他

(1) 警戒・支援出場等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出場	29件	火災危険のあるもの(危険物・ガス漏洩等)
誤虚報出場	37件	火災出場したが結果誤虚報であったもの
支援出場	528件	救急等の支援活動
その他出場	305件	上記以外(怪煙調査・エンジンオイル漏洩等)
合計	899件	

(2) 応援出場

応援先	件数	応援出場の内容
島本町	30件	救急出場 29件(特別救急隊出場 26件)・火災出場 1件
茨木市	3件	救急出場 1件・火災出場 2件
摂津市	2件	火災出場 1件・救助出場 1件
枚方市	1件	救急出場 1件
京都市	1件	救急出場 1件
合計	37件	

(3) その他の災害出場

区分	件数	その他の災害の内容
風水害出場	1件	台風第11号

※ 表中の△印は減少もしくは負数を表す